

- 私たちは、地域の人々の命と健康を守ります。
- 私たちは、健康な街づくりをめざします。

医療や福祉に関する困りごとなど気軽にご相談下さい。

ゆきわり草

発行 舞鶴健康友の会
2019年7月号

第28回舞鶴健康友の会 定期総会に65名参加

5月18日(土)、林業センターにて第28回舞鶴健康友の会定期総会を開催しました。65名の会員さんが参加され、1部総会は迫田会長挨拶の後、2018年度の活動のまとめと新年度方針の提案、会計報告、新年度の世話人さんが提案・承認されました。

今年度新しい世話人さんもお迎えし、「健康を守り増進させるとりくみ」「平和・憲法を守り、なくそうち原発・再稼働反対のとりく

み」「会員の親睦と交流を
はかるとりくみ」「会員を
増やし運営を強化するとり
くみ」を更に進めていきま
す。

た「平和・健康まつり」を
今年度リベンジできればと
願っています。

「原発・災害から命を守るには…
災害の備えについて」
守田敏也さん記念講演会

原発事故に関心のある若いお母さん達の参加が多く60名を超える講演会となりました。

原発災害の怖さや対処の仕方を各地で講演されていて、熱のこもったお話を聆りました。



一番の問題点は、原発の重大事故は想定外であり対応が困難であることで、多くの人たちの一斉の避難は不可能であり、政府は責任を放棄しています。しかも再稼動した原子炉もたびたび故障事故を起こしています。内部被爆について広島長崎からなかつたこととされ、原爆ぶらぶら病と云われて、個人の問題とされてきました。現在、関東圏で新ヒバクシャに能力減退症が始まっていると三田医師から報告されています。これらも原発推進側から都合が悪いので、否定の圧力がかっています。

また災害一般について、行政から発表されるハザードマップを見てしまうと、まず自分の住むところを探して危険の範囲以外として安心してしまい、まだ大丈

つい先日表題の会議があつた。友の会の会長をさせてもらつて9年になるが、いろんな種類の会議があり戸惑うことが多い。この会議もその一つだ。京都民医連に結集している健康友の会の代表者会議だと考えればいいようだ。毎年開かれているので、その間のまとめと次の方針が決められる。友の会の代表者が参加している場なので、活動経験が交流される。私的にこのことを期待して参加している。

報告から昨年のまとめを少し紹介しておくと、会員はこのことを期待して参加の拡大は約28000人、減

人、会員総員数は5万6人と報告された。それにても多い。員数が一通りの中には中右京が1万人を超え、左京、乙が8千人とづく。

後継者、い手づくり目標の一つ掲げられてることは、在どことか

さうなる前進を求めて
京都民医連共同組織連絡会
代表者会議に参加して

夫だと避難が遅れてしまう傾向がある。警報が発表されたら、ひとつと他の人に判断のよう逃げ出すことが重要だと訴えられました。避難訓練にも積極的に参加をして慣れておくことも大切です。

講演後場所を協立診療所の2階に移し、守田さんと1時間半にも及ぶ交流を持ちました。それぞれの質問に時間いっぱい丁寧に対応されお帰りになりました。

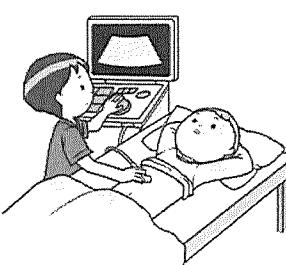
福知山からは、送迎を通りて会員が増えていたと報告された。

福知山からは、送迎を通りて会員が増えていたと報告された。

A black and white photograph showing a group of approximately ten people in a meeting room. They are seated around a long conference table covered with papers, documents, and a projector. In the background, there is a whiteboard on an easel, some shelving with boxes, and a window with curtains. The lighting is somewhat dim, and the overall atmosphere appears to be a formal meeting or presentation.

まいづる協立診療所では、毎年1年間の医療活動の方針を全職員で話し合い実践につなげています。これまで、私たちが出会った患者さんとの関わりを出発点にし、そこに診療所（民主医療機関連合）の理念や医療・社会情勢を加味して活動の一つとしています。

ガンと診断される人の割合は年々増加しています。



まいづる協立診療所では、毎年1年間の医療活動の方針を全職員で話し合い実践につなげています。これまで、私たちが出会った患者さんとの関わりを出発点にし、そこに診療所（民主医療機関連合）の理念や医療・社会情勢を加味して活動の一つとしています。

ガンと診断される人の割合は年々増加しています。

一つは腹部超音波検査です。おもに観察する臓器は、肝臓、胆のう、すい臓、ひ臓、腎臓などで、身体への侵襲がなく、痛みもない検査であります。

万が一この検査に引っかかった場合は医師のすすめで、他の医療機関に紹介させて頂いています。中には、

ガンの早期発見につながる



今や2人に1人はガンになると言われています。このことから診療所では「手遅れのガンを出さない」を方針にあげました。

その中で、診療所に来られる患者さんに1年に1回は受けて頂きたい検査があります。

去年なんともなかつたか

ら大丈夫ではなく、毎年の恒行事と思つてぜひ受け

てみて下さい。“捨てるウ

ンチで拾う命”を標語に

して今年も多くの方に大腸

ガン検診をすすめていきました。

いと思つています。

今年も多くの方に大腸

ガン検診をすすめていきました。

いと思つています。

今年も多くの方に大腸